opusdei.org

## 年間第4週日曜日· C年27.愛徳

年間第4週日曜日・C年27. 愛徳 一 愛徳の本質。 一 この 徳の特質。 一 愛徳は永遠に 続く。この世において始まる 天国への歩み。

2024/04/03

年間第4週日曜日·C年

27. 愛徳

一 愛徳の本質。

- 一この徳の特質。
- 一 愛徳は永遠に続く。この世において始まる天国への歩み。

## 27.1 愛の本質

ミサの第2朗読は、聖パウロの手紙 の最も美しい章句の一つ、いわゆる 愛の賛歌を思い出させてくれます 1。 聖霊は、今日私たちに、パウロ をとおして全く新しい基盤を持つ異 教の地で全く知らない仲間との関係 について話しています。これはキリ ストに対する愛です。「わたしの兄 弟であるこの最も小さい者の一人に したのは、わたしにしてくれたこと なのである」<sup>2</sup>。恩恵の助けによっ て、キリスト者は隣人の中に神を見 ます。皆、同じ父の子どもで、イエ ス・キリストの兄弟であることを 知っています。愛の超自然徳は大変 意味深い方法で隣人に近づくように します。単なる仲間意識や感傷とな いまぜにするわけにはいきません。

言うまでもなく、優越感を味わいた いがために他人を助けるという、 題のある野心とも異なります。愛生 は周りの人々と手を取り合って似名 ること、人々のうちにある神の人々 を尊重すること、さらには、ストと 自らの中に神を見つめ、キリること すから<sup>3</sup>。

主は隣人を愛することに、新しい、 比べることのできないほど深い意味 を付与されました。それを新しい 掟、キリスト者であることが人々に 知られるしるしとして制定されまし た<sup>4</sup>。 わたしがあなたがたを愛した ようにという神の愛は、私たちが他 の人のために持たなければならない 愛の尺度です。従って、それは、神 が私たちの心の中に注入される超自 然的な愛です。同時に、それは恩恵 によって豊かにされ、強められた深 い人間的愛でもあるのです。

愛がなければ、生きることは虚しくなります。最も卓越した雄弁とは充まったとしてもったとしてもったとしてもったがないがに消えていた。 音やシンバルがなくだけいまってもでもってもでは次のようにですっては次のように珍重されば、できずなければ、最高がなければ、私は者ともない」。多くの医者と神学者は、もない」。 神について、そして律法を知らない うと言われている人々について、イ エスと共にいた多くの人々よりもし、 もっとよく知っています。しかいし、 その知識のすべては実を結ばないい です。彼らは何が最も大切なのかい です。彼らなかったからです。彼らの に現存なさるメシア、理解と尊敬と 愛の教えがわからなかったのです。

愛の不足は、神を知ることができ ず、人の尊厳を理解できないほど知 性を鈍くします。愛は私たちのあら ゆる力を鋭敏にさせ、集中させま す。神への愛と神ゆえの隣人への愛 だけが、神についてと神に帰するす べてのことを、限界を持つ被告物が できうる限りにおいて理解するよう に導いてくれます。「愛さない者は 神を知りませんし、「神は愛だから です」。と聖ヨハネは教えます。希 望の徳もやはり愛がなければ不毛に なります。というのは、愛さないも のを手に入れることはできないから

です」。技術的にも最も優れ、精力的になされた仕事や犠牲を要する仕事でさえ、愛がなければ虚しいものです。持っている物すべてを手放しても、身体を焼かれるために引き渡されても、愛がなければ何も得ません。愛の代わりになるものは何もないのです。

今日祈りの中で、日々、この徳をど う実践しているか、自分に問うこと ができるでしょう。周りの人々のた めに小さな奉仕の行為をしています か?感じよく振舞おうとしています か? 人を傷つけてしまう時、謝って いますか? 周囲に平和と喜びを広め ていますか? 他の人々が神に向かう ように助けていますか? それとも逆 に、他の人々に無関心ですか? 苦し んでいる人々と共にキリスト者の一 致を生きるために、貧しい人々や病 気の人々を訪問することによって憐 れみの業を実践していますか? お年 寄りの必要性のために世話をし、社

会の端にいる人々のことを気遣っていますか?要するに、神とのいつもの関係は、日々接する人々への理解のある行いと奉仕に表されるのです。

## 27. 2 この徳の特質

聖パウロは、愛を引き立たせる特質はどれであるか、私たちに教えてくれます。第一に、愛は他人に対して寛容であると教えています。良い行いをするために、前もってやっかいなことや不機嫌、不作法の徴候を拒絶しながら、悪にどう耐えるか知らなければなりません。

忍耐は、優れた剛毅を示しています。もし私たちが付き合わなければならない人たちの欠点や敵意、疑いや不機嫌に対して我慢するとなれば、愛徳はしばしば忍耐を要求することになります。この徳のお陰で、些細なことの真の重要性がわかり、バランスを失って叱り飛ばさないこ

とでしょう。もし、人を正す必要が あれば、それに相応しい時を待ちた いという心構えができます。愛があ れば、もっと付き合いを良くするた めに、付き合うのが難しい人たちの 心に届く言葉で返答しやすくなるで しょう。忍耐は他の人々と一致して 生きるように導く、優れた徳です。 忍耐を持つことで私たちは神に似ま す。神は、私たちの多くの過失に非 常に長く苦しまれながらも常に怒る に遅いお方です<sup>8</sup>。 私たちはイエス を模範にします。イエスは、ファリ サイ人の悪意によく気づいておられ たにもかかわらず、彼らを説得する ために身を低くして彼らのようにな られました。丁度それは重病患者に 最善の処方を施す良い医者に似てい ます。

愛は親切です。即ち、愛はすべての 人に良いことをしたいという気にさ せます。大きく寛大な心にだけ親切 にする余裕があるはずです。私たち にとって最良のことは、他の人々の 益になるものでなければなりません。

愛は高ぶらず、誇りません。愛に反する多くの誘惑は、隣人に向けられる傲慢な態度に要約できます。私たちは、自分のことを忘れるほど、ただ他人に奉仕し、心遣いをすることができます。謙遜でなくては、他の徳はありえません。特に愛徳はあり

えません。多くの場合、愛に反する 過ちは、虚栄心と高慢がらみの欠 点、利己主義と他人より秀でたいと いう望みが優先してしまうのです。 愛を実行することを妨げる高慢は、 いろいろな形で表れます。高慢な人 の視野は、非常に限られています。 それは、自分だけに留まっていま す。自分自身だけ、自分の特性、自 分の徳、自分の才能だけしか見えな いのです。それは、神なき領域で す。この狭量な領域には、他の人た ちが入り込む余地がないのです¹゚。 愛は野心ではありません。愛は、自 分の思い通りにしたいと言い張るこ とはしません。愛は自分のためには 何も望みません。他の人の内におら れるイエスを愛することを知ってい ますし、それで十分満ち足りている からです。獲得したいという望みを 最優先して、野心的でないばかり か、思い通りにしたいと言い張るこ とさえしません。愛は、キリストを 探し求めます。愛は、悪を喜びませ

 めていないならば、イエスを見出し たことに気づくでしょう。

27. 3 愛は永遠に続きます。この世における天国を前もって味わうことであり始まりです

「愛は決して滅びない。預言は廃れ、異言はやみ、知識は廃れよう。…それゆえ、信仰と、希望と、愛、この3つはいつまでも残る。その中で最も大いなるものは愛である」<sup>11</sup>。

この3つの対神徳は、直接、神を対象としているので、キリスト教的生活の中で最も大切なものです。に称望は天国では存続しません。を発生を与える力のあるするでは、至福を与えるからです。これに反しているからです。これに反しているは永遠に続きます。この地上にするは、愛はすでに天国の始まりですな遠の命は、愛の途切れのない行いです<sup>12</sup>。

愛を追い求めなさい $\frac{13}{2}$ 。 聖パウロはこう熱心に説きます。それは、キリストの最も素晴らしい贈物であり、主な掟ですから。そして、愛こそが、キリストの弟子であることが人々にわかるしるしです $\frac{14}{2}$ 。

それは良かれ悪しかれ、あらゆる瞬 間に試される徳です。私たちはいつ でも人々の必要を満たすことができ ます。何か喜ぶことを言う、噂話を 避ける、励ましの言葉を与える、誰 かを先に通す、誰かの特別な必要の ために神にとりなす、良い助言を与 える、微笑む、家族や什事の仲間の 間にもっと快い雰囲気を作るように 手伝う、誰かをゆるす、好意ある判 断をする、など。私たちは善を行う こともできるし、失敗することもあ り得ます。私たちは他人に、怠慢に よるものだけでなく、はっきりした 危害を加えることもあり得るので す。愛は、奉仕の仕事をすること、

祈りと悔い改めをとおして、常に愛 を示すように駆り立てます。

私たちの愛が成長すれば、すべての徳は、豊かになり強められます。愛で満たされることのない真の徳はありえません。「持っている愛と同じだけ徳を持つのであって、それ以上に持つことはあり得ません」<sup>15</sup>。

頻繁に聖母に頼れば、マリアは他の人々との接し方、付き合い方を教えてくれるでしょう。マリアは愛の先生だからです。人々に対するマリアの愛は誠に深く、「友のためにない」(カーカーの表える以上の大きな愛はない。今年において実現しまいた $^{1.6}$ 。母であるマリアもまれたのでした。

\_ \_ 3

- <sup>2</sup> マタイ25・40
- <sup>3</sup> 聖ホセマリア・エスクリバー 『神 の朋友』 2 3 0
- 4 ヨハネ13・34 参照
- <sup>5</sup> ヨハネ7・49
- 6 −ヨハネ4・8
- $^{7}$  聖アウグスチヌス,Treatise on faith, hope and charity,  $1\ 1\ 7$
- 8 詩編 145・8 参照
- St Cyril, Catena Aurea, vol VI, p. 46
- $\frac{10}{2}$  サルバドール・カナルス 『私の友イエス』 p.5 2
- <sup>11</sup> ーコリント13・8-13
- <sup>12</sup> 聖トマス・アクイナス 『神学大全』I-Ⅱ, 114, a4参照

- 13 コリント14・1
- 14 ヨハネ13・35参照
- F.de Osuna, A Spiritual Alphabet, 16, 4
- $\frac{16}{2}$  聖ホセマリア・エスクリバー op cit, 2 8 7

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/ Nenkan-Daiyon-Shuujitsu-Youbi-C-Nen-27-Aitoku/ (2025/12/03)